

月の夜がうさやを思ふ林思や志し〜月を落雲青葉〜
けり〜夏山うけ小夏の徳つ〜々烟道ゆりゆりの新踏
ひ道〜雨小いほふ〜うらてぬりよ傘とわら〜かかた
と行〜うらきぬれ〜ふま〜よ袖笠

異雷の事

或人の香人の代り人〜〜文連わ〜小常路と奪り六田
驛小泊〜ぬ夕〜雷音はさ次着小つ〜り〜見敷三
人〜り寄酒盃とわ〜む多凌さ居〜に俄小巖敷唱〜
ぬ〜は先一二か所〜の内〜り〜ぬ〜見え真黒小なり

是はとさふ〜う〜又〜は〜見〜り〜
小酔〜〜とさ〜り〜り〜鞠径の火の玉去酒席〜
向ひ花ま〜け浪〜吹〜〜皆仰〜ぬお〜に後うの
襖丸〜穴り〜火の玉通り膝〜ぬせ不西〜出〜
西余〜〜右の後亭〜〜下斗〜陽〜〜寺院中燃也
一寺灰燼〜〜又〜る浪花上香の麦快情大空のま
中小〜〜十間斗〜〜とや〜〜思雲〜〜其雲中〜
小雷〜ツ〜唱雲〜散〜詠歌もか身由難波衛尉の以文
改四乙の夏宿田士をほ人〜り〜

二頭猫の事

文政六年六月十九日長崎東瀬町と云所にて猫以ニラ
一新の子作りし跡よりニツキも一いふふの猫なり

三木根入之事

三木のひ能い根入りふきとめくは天竺のひる本を
此の通し中にも根入深し水比の根其外にも根平蜘蛛
の足のとく横に中し根入りしれい云いものひす根り
形に枝葉繁茂と云り一様ハこの本りの足に根深く
うねらうと云いものひ能いもの

石列之事

相列小田原驛上の方小側小青木養長と云者あり関八
州石工の司より由来ありとの事一則御宮あり官月
十七日沙条橋の式あり憾小治条礼と云りあり

二條沙城之事

二條沙城の昔二瓦中りりり度長元和の以述ハ二條沙城を
と云其頃ニ橋七七尾長尾市十所あり市十所家と同姓と云ふは八岐と云り
別沙城内小妻子住居と云坂落城直小二條沙城を